

“すばらしきみえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2022.4

227号

■特集／三重の昔話ゆかりの地

●いま、グループネット／安乗人形芝居保存会 ●みえを歩こう／鈴鹿市 加佐登町界限



三重の昔話ゆかりの地

三重県内の各地では、多彩な昔話が語り継がれています。これらの物語は懐かしいと同時に、私たちの心を打ちます。今回は、そんな昔話ゆかりの地を6か所ご紹介いたします。

助けられた猿と村人が協力して、建立をお手伝い

鳴谷山 聖寶寺

猿の恩返し

【いなへ市藤原町】



鳴谷神社の猿

藤原岳の麓に鎮座する鳴谷神社を訪ねると、珍しい光景に出合います。参拝者を出迎えるのは狛犬ではなく、猿で、

縁起のよいものとされているのです。鳴谷神社のさらに奥には、猿にまつわる昔話が伝わる聖寶寺がたまたみみまます。

しかも新旧2対が並んでいるのです。昔むした方は大正時代、新しい方は平成29(2017)年に建立されました。同神社では、猿を「神猿」と呼び、それが魔が去る、勝る、優る、賢るに通ずることから、

話とは、平安時代のある日のこと、山に囲まれた美しい村を訪れた一人のお坊さんが、畏にかかって苦しむ猿を助けたことに始まります。喜んだ猿は、何度も礼を言っ、山へと帰っていきます。続いてお坊さんは、やはり病に苦しむ村人たちに会います。村人たちが救うために折ったところ、観音様が現れ、滝の近くに寺を建て、観音様を祀れば、村人の病は治ると教わります。そこで、お坊さんは一人寺を建て始めます。すると、助けられた猿が仲間を連れてきて、手伝うように。やがて、その様子に気付いた村人たちも加わり、立派な観音堂が完成。村に平和が訪れたというものです。この昔話に登場する観音堂とは、聖寶

寺のことで、お坊さんとは天台宗開祖の伝教大師(最澄)だと伝わります。「藤原町民話研究会(藤井樹巳代表)は、この話を子どもたちに語り継ぎたいと、1冊の絵本にまとめました。タイトルは「さるのおんがえし」。ほのぼのとしたタッチのイラストが、心温まる物語に花を添えています。



「さるのおんがえし」の一場面

「地域の人は『山から猿が下りてくると雪が降るといいますね』と、今も猿が身近な存在であることを教えてくれるのは、聖寶寺住職の中井泰山さん。保育園児に「さるのおんがえし」を定期的に読み聞かせをするという住職は、猿(動物)と人間の関係について考えるきっかけ



「さるのおんがえし」紙芝居の一場面

けにしてほしいと話します。現在、農作物などを荒らす厄介者とされていますが、この昔話のように良好な関係になればと、願っているのです。紅葉の名所として名高い聖寶寺は、近年では動物供養の寺としても知られ、長年大切に育ててきたペットの供養を依頼する人々が訪れます。今日も同寺では、人間同様に動物法要を執り行う住職の姿が見られることでしょう。

お問い合わせ

鳴谷山 聖寶寺
TEL 0594-46-8101



聖寶寺の守護神・鳴谷神社



大正時代に建てられた猿



平安時代作庭と伝わる聖寶寺の庭園

*各昔話ゆかりの地に関連する法要やイベントなどは、実施期間・受け入れ人数・受け入れ方法などに違いがあり、状況に応じて延期・休止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材文：中村真由美 中村元美 堀口裕世
撮影：梅川紀彦 中野耕司 尾之内孝昭 中村元美
ただし※印の写真は取材先から提供していたきました

哀れな小女良の話と、小女良稲荷

龍谷山 廣禪寺

小女良狐

【伊賀市上野徳居町】



小女良稲荷の祠内

伊賀上野の城下町の一面にある廣禪寺は、県指定文化財の「木造聖観音菩薩立像」や「廣禪寺輪藏」を有する名刹として知られます。なお、「輪藏」とは、一切経を収納するための書架のことで、これを回転するだけで経典を読むのと同じ御利益が得られると信じられています。

ところで、同寺の歴史は波乱に満ちたものでした。開山は応永21(1414)年で、当初は津市内に堂宇が建っていました。しかし、およそ150年後に織田信長の侵攻で焼失。その後も、信長の息子・信雄の侵略に遭うなど、多くの苦難を乗り越えた結果、現在地にたどり着い



廣禪寺本堂

たのです。慶長13(1608)年のことでした。この廣禪寺には、ある悲しい昔話も語り継がれています。主人公は、いつのころからか、寺の台所仕事を手伝うようになったかわいいう女の子、小女良です。よく働く気立ての良い子で、近所の子ども

たちにも好かれていましたが、ある日のこと、いなり寿司を作るために炊いていた油揚げをつまみ食いしてしまいます。「かんにんして…」と謝る小女良に対して、方丈さん(住職)は敢えて強く叱りません。すると、走って逃げる小女良から長くて大きな茶色のしっぽが…。小女良は、本当は山に住む狐だったのです。何とか山の近くまで戻った小女良でしたが、運悪く、獵師に鉄砲で撃たれてしまいます。ぐったりとした姿を見て、叱ったことを後悔し、哀れに思った方丈さんは、寺の中に小さな塚を建て、手厚く葬ってあげたのです。

「今も小女良稲荷として祀っていますよ」と案内してくれるのは、廣禪寺住職の武内宏道さん。納骨堂の傍らに小さな祠が建ち、赤い幟がはためいています。「定期的にお参りに来る人もいますね」と、奥様の麻起子さんが教えてくれました。お二人によると、この話は市民には馴染み深く、平成2(1990)年に旧上野市(現在の伊賀市)の市制施行50周年を記念して発行された民話集「こじょうぎつね」のタイトルになり、掲載された30話の中で最初に紹介されています。また、地域の民話の会が、祠の前で朗読会などを開催することもあるといい

ます。小女良稲荷を大切に祀る同寺では、小女良狐のおみくじも人気です。毎月運試しを兼ねて購入したり、友人へのお土産にする人もいます。かわいなおみくじが並ぶ様子を目にしながら、「もしかすると、この中に変身した小女良が紛れ込んでいるかも…」と空想するのも楽しいひとときでしょう。



小女良狐のおみくじ

お問い合わせ

龍谷山 廣禪寺
TEL 0595-21-0657



小女良稲荷の祠



小女良稲荷の御朱印 民話集『こじょうぎつね』



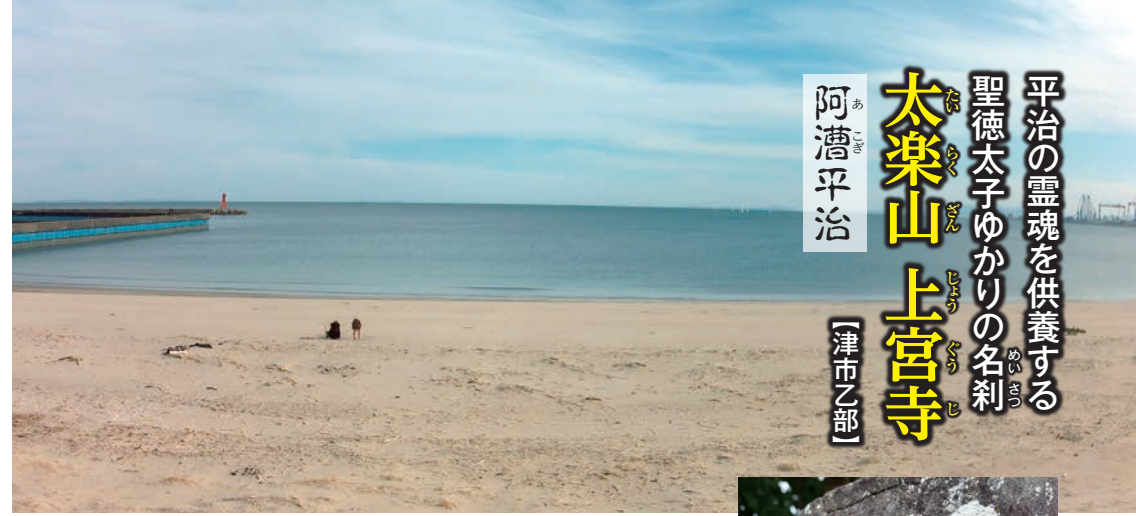
伊賀組紐のお守り



夏には願い事が書かれた短冊を付けた風鈴が境内を彩る。*

*印の写真は取材先から提供していただきました

平治の靈魂を供養する
 聖徳太子ゆかりの名刹
大楽山上宮寺
 阿漕平治
 〔津市乙部〕



白砂の美しい阿漕浦



阿漕塚にある平治像

昔、津の阿漕浦は神宮の神饌を捕るため禁漁とされていましたが、平治は病気の母のために密かに漁をしていました。やがてそれが発覚して平治は捕らえられ、簀巻ぎにして海に沈められてしまい、悲しんだ母も亡くなります。その後、阿漕浦にはすすり泣くような声が聞こえるようになり、哀れんだ人々は、浜の近くに「阿漕塚」を立てましたと、孝行息子の悲しい物語として知られる阿漕平治の伝説は、これを元にして世阿弥の作といわれる謡曲「阿漕」や浄瑠璃「勢州阿漕浦鈴鹿合戦」などがつくられています。また、寛政9（1797）年に成立した「伊勢参宮名所図会」では、阿漕浦の物語

として平氏の平次盛が神宮の御贄漁を妨害して捕らえられたと書かれています。

阿漕平治の物語には、実は重要な後日談があるとのことで、伝説ゆかりの上宮寺の住職・清水谷博祇さんにお話を伺いました。上宮寺は、推古2（594）年、聖徳太子が23歳のとき建立されたという古い由緒を持つ名刹ですが、天正8（1580）年、織田信包の安濃津城築城の際に現在の位置に移るまで、阿漕塚のある場所に伽藍があったということです。「応永25（1418）年に、当時將軍だった足利義持が宿泊したという記録が残っていることなどから、かなり大きい寺院だったと思います。土御門帝の御代（在位1198～1210）ですから源平の合戦の後のことですが、その頃まだ平治の怨念が残っていて、毎年命日の頃には網を引く声が聞こえると恐れられ、また疫病が流行して亡くなる人も出たそうです。阿漕平治というのは、阿漕に住む平氏であったそうで、その

末裔の友盛という人が、一族の靈を怨靈のままにはしておけないと、人望のあつかった当寺の西津律師に相談しました。そこで律師は、21日間お念仏を唱え、三部妙典を石に書いて、平治の亡くなった付近の海に沈めて靈を弔いました。供養が終わった後、平治の亡霊が律師の夢枕に立ち「おかげで妄執が晴れ、浄土に往生できます。これからは私の念持仏である雨宝童子をお祀りしてこの寺の守護神としてください」といい、律師が目覚めると、海に沈めた経石が枕元にあります。友盛は感涙にむせびながら家に伝わ



〔阿漕塚〕



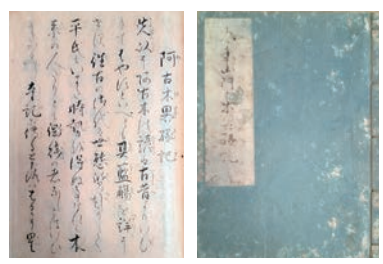
上宮寺



上宮寺の本堂内



経石



〔太楽山阿古木略縁起〕



雨宝童子像

る雨宝童子の像を当寺にもたらしたといわれています。この像は、今も経石とともに当寺にあります。慶長5（1600）年の関ヶ原の乱の際、津でも起こった戦乱で炎に包まれた痕が残るいたわしいお姿ですが、毎年、8月16日の平治の命日には「阿漕平治保存会」の方たちと、阿

漕塚にこの像を安置して法要を行っています」と、かわいいお顔立ちの雨宝童子の像に、長い歴史のさまざまなかごごとが折り重なっているような、不思議なお話を語ってくださいました。上宮寺には、享保8（1723）年に記されたこの物語についての文書「太楽山阿古木略縁起」も残されています。阿漕浦の浜は白砂も美しく、青い海は爽やか。今は怨念も晴れ、穏やかに明るい伝説のふるさととなっています。

お問い合わせ

太楽山上宮寺
 TEL 059-2227-6021

雌雄の龍に守られた古刹 龍池山 松尾観音寺

ニツ池の龍

【伊勢市楠部町】



本堂の床に現れた「撫で龍」

伊勢市の「倉田山公園」は、市街地にもかかわらず木々が茂り深山の趣です。ここにある大きな二つの池が、龍がすむという「二ツ池」。勾玉を二つ巴の形に置いたような形で、東の池には雄龍が、西の池には雌龍がいるといわれています。

この池の南西、小高い丘の上に、創建

1300年という古刹、龍池山松尾観音寺があります。日本最古の厄除け観音、縁結びの観音様として全国から参詣の人が絶えません。

石段を上がると、文政3(1820)年に建立された本堂が見えます。屋根瓦にも観音経の文字や龍がかたどられた総檨造りの荘厳なお堂ですが、五色の幕



観音経の文字が彫られている瓦

語ってくださいました。

ご本尊と脇侍の二体の仏像は、秘仏として御前立ちの十二面観音像(平安時代の作)の背後、二重扉の奥にお祀りされていますが、12年に一度、午年にだけ開帳されるそうです。

この本堂の床下には龍のうろこと伝わるものが安置され、天井には天井板を一枚外した龍の通り道が開けられているなど、龍にまつわるさまざまな物や言い伝えが残っていますが、最近では、本堂の床に龍の姿が浮かび上がり話題となっています。平成17(2005)年に本堂の床を張り替えた際に発見され

たもので、ケヤキの板2枚にまたがって現れていて、参詣の人たちに「撫で龍」と呼ばれ、パワースポットとして評判を呼んでいるのです。本堂の中に掛けられたたくさんの古い絵馬は、多くが江戸時代のもの。鮮やかな彩色で精巧に描かれたものが多く、人々の信仰のあつさが伝わってきます。

現代は、龍の描かれた五角形の絵馬と、五色のかわいい丸い絵馬が授与所にあり、黄色は金運、赤は結婚や



丸い絵馬が縁を結ぶ

恋愛運…と色ごとにさまざまな願いのご縁を結んでくれるのだとか。

龍づくしの本堂を出て奥に向かうと、体をくねらせた龍の姿に刈り込まれたツツジが植えられ、さらに奥の鳥居の並ぶ先には、宝を授けるといふ聖観音をお祀りする「聖観音堂」や鎮守の「松尾龍池社」が続きます。

お寺を出て坂を下り池のそばに行くと、池は静まり返り、今にも雌雄の龍が水から顔を出しそうです。

お問い合わせ

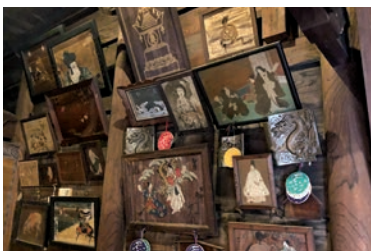
龍池山 松尾観音寺
TEL 0596-221-2722



東の池



本堂(手前)



本堂の中に掛けられた古い絵馬



龍の形に刈り込まれたツツジ



「聖観音堂」

吉事には白い汗、凶事には黒い汗をかく

堂の山薬師堂

汗かき地蔵

〔志摩市大王町〕



柔和な表情の汗かき地蔵

の山」があります。石段を上った小高い丘には地蔵堂のほか薬師堂、庚申堂が並び、市指定有形文化財である薬師如来座像や由緒ある地蔵が鎮座。この地域の「祈りの丘」となっています。

「波切の仙遊寺、大慈寺、桂昌寺の三か

寺が管理し、祭りや祈祷などの法事は三か寺の住職が一緒に勤めるのが慣例となっています」と「波切氏仏教会」で堂守の浜口吉輝さん。

汗かき地蔵と親しまれている霊汗地蔵菩薩は、天文年間（1532〜1555）に漁師の惣左衛門の網に掛かったものと伝わっています。惣左衛門が海から引き上げた石像に、浜で遊んでいた子どもたちが悪さをすると、その子は熱を出したり、足が腫れたりと思議な出来

事が起こりました。村人は奇妙な祟りだと恐れて過ごしているうち、雨風にさらされた石像は、地蔵の形が表れてきました。村人は堂の山に祠を建てることにしました。そして大漁や豊作になると、この地蔵は白い汗をかき、反対に地震や津波、また不漁や不作のときには黒い汗をかいて村人へ予告するようになったのです。それ以来、一層大切にこの汗かき地蔵を守ってきました。

毎年2月24日の

「汗かき地蔵祭」では、海上安全、大漁満足、家内安全、家業繁盛、交通安全などを祈願して読経が行われ、波切コミュニティセンター前の通りには露店が並びます。近くの大慈寺では河津桜がちょうど見ごろとなり、花見客も訪れています。



「汗かき地蔵祭」での読経※



好漁場を控えた漁業の拠点、波切漁港

志摩半島の東端、大王崎に位置する波切は古くから漁業が盛んな町。漁港からほど近い桂昌寺前に汗かき地蔵を祀る「堂

思案地蔵は、江戸時代末に起きた「波切騒動」で亡くなった人々を供養するため当時の仙遊寺の住職によって発意されたものです。騒動の内容は諸説あり、真相は定かではありませんが、『大王町史』によると、天保元（1830）年、御城米を積んだ船が大王島沖で遭難し、漁民が沈んだ船から米を持ち帰ったことから事件となり、14人が処刑されてしまい、その犠牲者を弔ったものだと伝わっています。

薬師如来座像を本尊として安置する薬師堂は、通称「波切薬師堂」で、その歴史は古く、住民から崇拝されてきました。もとは真言宗の寺院であり、薬師如来は左手に薬壺（やくこ）を持って蓮華座（れんげざ）に坐り、従来



首を傾げた思案地蔵



薬師堂に祀る本尊の薬師如来座像

鎌倉時代作の寄せ木造りとされていますが、平安時代後期の様式も見られ、志摩地域の仏教信仰を考える上でも注目されています。また制作時期の異なる面脇侍の日光菩薩・月光菩薩、それに十二神将が従い、堂内には厳かな雰囲気が漂っています。

この薬師堂の正面に懸かる鰐口も市指定有形文化財で、江戸時代の万治2（1659）年に制作されたものです。作者は安濃津を拠点に活躍していた鋳物師・辻重種（つじしげね）で、兄の吉種（よしかね）とともに津市岩田橋の擬宝珠（ぎぼしゅ）をはじめ、多くの作品をつくった人物です。



正面に吊り下げられた鰐口

境内からさらに階段を上がってみると、四国八十八箇所観世音像を祀る鐘

霊堂や、役の行者堂、また海の見える場所には大日如来堂と、人々の信仰あついで、祈りのスポットとなっています。



大日如来石像

お問い合わせ

「波切氏仏教会」

TEL 0599-7213174

※印の写真は取材先から提供していただきました

鎌倉時代のもものと伝わる小さな守り仏

井田観音

海からきた観音さま

【紀宝町井田】



年に2回ご開帳される井田観音*

から500メートル程進んだ下り場地区で、長年、七里御浜の波打ち際で見つかったとき、熊野地方には海から神仏

や貴人が寄り来るといふ伝説が数多く伝わっていますが、この観音もその一つです。

美しく整えられた敷地に、高野槇が手向けられた地蔵尊の祠や、白塗りの木造の堂宇があります。お堂は安政3(1856)年に建立されたもので、堂内にはご本尊の井田観音が祀られています。この聖観音像は鎌倉時代の作とされて



集落入り口の石柱

七里御浜沿いに続く国道42号から、道の駅「紀宝町ウミガメ公園」付近で山側の集落へ入ると、「井田聖観世音」と刻まれた大きな石柱が立っています。そこ

す。壁に掛けられた「船絵馬」は幕末頃の作品と思われ、船主が航海の安全を祈願し奉納したものです。ほかにも堂内は絵画や漢詩、版画などで埋め尽くされ、人々に親しまれてきた様子を物語っています。



参道の「巡礼坂」

たそうです。参道に残された「巡礼坂」という呼び名から、往時をしのぶことができます。

ご開帳の機会は一年に2度。もう1日がお盆前の8月9日です。この日を「観音さまの日」とし、先祖の霊をなぐさめ、供養の盆踊りをします。これは江戸時代から続く伝統ある行事で、やぐらを囲んで「やっさのせ」「甚句」そして「いろはくどき」の音頭に合わせて、珍しい「ほうき踊り」も披露されます。シュロのほうきを手に、輪になって、太鼓の音とゆったりとした音頭に合せて踊りますが、これ



手水横に4体の地蔵



西家の敷地内にあるお堂



堂内は自由に参拝できる



奉納された大きな「船絵馬」



8月9日の「ほうき踊り」

お問い合わせ

紀宝町役場 企画調整課
TEL 0735-333-0334

は田畑の虫追いが発祥です。書虫を追い払うために、昔は田の水面に油を張り、竹の棒の先にワラを束ねてつくった「ぼうずり」で止まった虫を掃き出し、その所作を真似たもので、「ほうき踊り」は一時途絶えていましたが、地域の若者たちが伝統を継承しようと約30年前に実行委員会をつくり、復活させました。普段はもの静かな下り場地区の集落で、ご開帳の日を住民はこぞって心待ちにしています。

*印の写真は取材先から提供していただきました

安乗人形芝居保存会

安乗文楽「テコシバイ」などと呼ばれることもある「安乗の人形芝居」は長い歴史を持ち、国の重要無形民俗文化財にも選ばれています。全国的にもよく知られるこの郷土芸能を伝承している「安乗人形芝居保存会」では、地域全体が力を合わせ、心を一つに伝承の形人形芝居を次世代につないでいきます。



「日高川入相花王」
渡し場の段※

お問い合わせ

「安乗人形芝居保存会」
TEL 090-2687-3276
(石井 太佳夫会長)

「安乗人形芝居保存会」は、人形芝居とともに古い舞台建築や人形なども受け継ぎ、また先人たちの「想い」も大切に伝える地域全体の活動です。今回は、会長の石井太佳夫さんに代わり、書記を務める尾崎壽美さんにお話を聞きました。

——「安乗人形芝居」は、喜怒哀楽の表現が素朴で大胆かつ野趣に富むと評価されていますが、古くから行われてきたのですか。

尾崎：はじまりは400年以上も昔のようです。豊臣秀吉の朝鮮出兵(文禄の役)の際、水軍の将として出兵した志摩の国主・九鬼嘉隆が、戦いで武功をたて、御礼参りに再び八幡神社(現在の安乗神

社)を参拝した時、村人たちが手踊りなどで歓迎した。この時に村人の願いを叶えて人形芝居を許したとされています。その後、風待ち湊で来港した大阪や、阿波国、淡路国などの人々の影響を受けながら続いてきたということですね。

——義太夫による「浄瑠璃」や「文楽」と呼ばれる芸能が確立される以前から、素朴な人形芝居が行われていたのですか。保存会の発足はいつですか。

尾崎：大正末期の不況や戦争などの影響で一時途絶えましたが、昭和25(1950)年に人形芝居を復活し、「安乗人形芝居保存会」を立ち上げました。国の重要無形民俗文化財に指定されたのは昭和55(1980)年です。復興に携わっ

台は、女性の会や黒子など人形芝居以外の演目も芸達者だと評判です。楽しくて、郷愁を誘う温かさもあると。

尾崎：うれしい評価ですね。保育所の子どもたちや女性の会など、老若男女、まち全体で盛り上げています。踊りなどの稽古に励んだり、おひねりを作ったり、皆で企画や準備をしています。

——舞台や人形も立派で、臨場感がある。高い評価を受けていますが、今、人形芝居の演目はいくらありますか。

尾崎：現在、「絵本太功記」や「傾城阿波の鳴門」など10以上の演目を上演してい

た方たちは苦勞されたのですが、それだけ地域には人形芝居への想いが強く残っていたのです。その想いは私たちも引き継いでいきたいと思っています。

——会員はどのような人たちで、どんな活動をされていますか。

尾崎：安乗では、地区民が保存会の会員となり、役員13名を中心に地区全体で「安乗の人形芝居」を支えています。人形の遣い手は、23名いますが、安乗だけでなく志摩市各地から参加してくれています。活動としては、毎年9月の第2土・日曜の「安乗神社秋季例大祭」で、境内の舞台で奉納します。このため5月から準備や練習に入ります。また、指導に行かせていただいている「東海中学校郷土芸能

クラブ」の生徒たちは、祭りで中学生だけで一つの演目を演じます。人形遣いや三味線、義太夫(語り)もがんばって自分たちだけで上演するんですよ。平成30(2018)年3月に「志摩市立安乗中学校」と「志摩市立東海中学校」が統合されたのですが、このクラブにも安乗以外の地域の子たちも参加してくれています。また祭りの他に、小学校を訪問しての出勤授業なども行っています。

——「安乗神社秋季例大祭」の奉納舞



舞台上に並んでのあいさつ※

中学生たちの稽古風景※



「絵本太功記」の一場面※

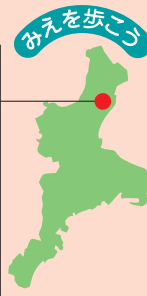


さまざまなかしらが伝わる※

ます。新しい演目にも挑戦したいねという声はいつもあがっています。人形のかしらは百ありあり、古いものには江戸時代初期の年号が書かれています。全体の3分の1以上が江戸時代に作られたものです。舞台は、安政7(1860)年に改築された船底形舞台で、これは日本で3つしか現存しない形です。衣裳なども古いものがあり、貴重なものばかりですので大切にしています。手入れや修理は、技術面でも資金面でも困難になってきています。

——今年の「安乗神社秋季例大祭」は9月10日(土)・11日(日)です。好天に恵まれて賑やかに開催されますか。

インタビュー…堀口裕世



日本武尊伝承が息づく

鈴鹿市

加佐登町界限

鈴鹿市のほぼ中央に位置する加佐登町界限には、日本武尊伝承が今に息づく名所・旧跡が点在します。日本武尊といえば、奈良時代に編纂された『古事記』『日本書紀』に登場する謎多き人物。大男で戦上手だったことから、父である景行天皇に従わない者たちと戦うために九州や東国などに赴きます。ところが、東国から大和の国（現在の奈良県）への帰り道、伊吹山の神の怒りに触れたために病気になる、力尽きて能褒野で亡くなったとされます。また、この終焉の地には陵墓が築かれ、尊の魂は白鳥となって飛び去ったとも伝わります。

今回は、歴史ロマンに彩られた日本武尊伝承の地を中心に巡ります。取材・文：中村真由美

キヤマトケル(フミコト)は、『日本書紀』では日本武尊、『古事記』では倭建命と表記されています。また、能褒野は『日本書紀』の表記で、『古事記』では能傾野と表記されます。今回は『日本書紀』の表記で統一しました。



加佐登神社拝殿に鎮座する日本武尊像



今回、お話を伺ったのは、大萱(おおがや) 功さん(左)と瀬古 義雄さん(右)。地域をこよなく愛する二人は、加佐登神社周囲の環境を保全する「加佐登保勝会」に所属しています。

「白鳥塚古墳」に眠る人物は？

今回の散策の起点、JR「加佐登」駅を出発した後は、ゆるやかな坂道を上ります。加佐登神社の案内板を目印に右折すると、生い茂る木々が見えてきました。加佐登神社の社叢です。日本武尊が亡くなる間際に身に着けていた笠と杖を祀ったのが始まりと伝わる同神社は、かつては「御笠殿」と呼ばれ、人々の信仰を集めてきました。大萱さんによると、30

年前までは春の大祭が行われる4月8日になると、駅から神社に至るまでの道が大勢の参拝者であふれていたといいます。今では、ムラサキツツジの名所としても知られ、4月上旬ごろには、鮮やかな紫色の花が来訪者の目を楽しませてくれます。

ところで、日本武尊の陵墓はどこにあるのでしょうか？平安時代に編纂された『延喜式』では鈴鹿郡内に所在すると示されているのですが、江戸時代にはわからなくなっていました。諸説ある中

で、かつては加佐登神社近くの「白鳥塚古墳(県指定史跡)」が最有力候補とされてきました。実際に明治9(1876)年には、明治政府によって尊の陵墓と定められました。3年後に亀山市内にある「能褒野王塚古墳」に改定されたのです。

真偽はさておき、この「白鳥塚古墳」に関して、近年、新たな発見がありました。平成16(2004)年から翌年にかけて鈴鹿市が発掘調査を行った結果、それまで県内最大の円墳だと思われていた同



加佐登神社拝殿



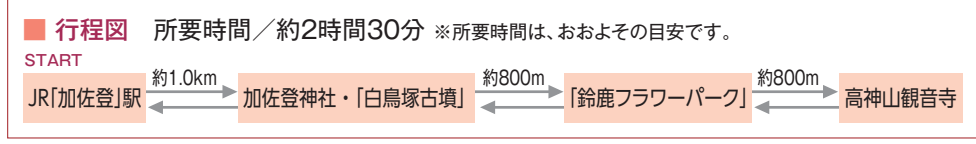
拝殿内の「日本武尊」の扁額



ムラサキツツジ ※



「白鳥塚古墳」





「鈴鹿フラワーパーク」



春日局が寄進した梵鐘



高神山観音寺の本堂



吉良の仁吉の追悼碑

春と秋には「鈴鹿市植木まつり」(中止の場合あり)が開催される「鈴鹿フラワーパーク」でのんびりした後には、高神山観音寺へ向かいます。同寺も日本武尊にゆかりがあり、縁起によると、弘仁3(812)年に、弘法大師(空海)が尊の神霊を仏像として祀ったのが始まりとされています。時は流れ、慶応2(1866)年の4月、同寺の裏山で、ある出来事が起こりました。桑名の穴太徳に賭

日本武尊ゆかりの古刹で死闘

古墳が、実は帆立頁式(ほなごいしき)の前方後円墳であることが判明したのです。また、従来は5世紀後半から6世紀にかけて築造されたと考えられていましたが、5世紀前半にまで遡ることもわかりました。現在、古墳入口に立つ説明板には「鈴鹿川流域を支配した首長の墳墓である」と記されていますが、地域の人々が加佐登神社と「白鳥塚古墳」を敬う気持ちに変わりはありません。有志で結成された「加佐登保勝会」や「みささぎの会」などが、



4月には神域一帯が紫色に染まる※



静寂に包まれる「白鳥塚古墳」



「加佐登調整池」

場を奪われた神戸の長吉が、吉良の仁吉や清水次郎長の子分たちの応援を得て争い、吉良の仁吉が銃弾に倒れたのです。この死闘は、後に浪曲「荒神山の血煙り」などで全国にその名を知られることになりました。今では「荒神山観音寺」の俗称で親しまれている同寺の境内には、浪曲界の重鎮、廣澤虎三が建立した吉良の仁吉の追悼碑がたたずんでいます。また、春日局が正保4(1647)年に寄進した梵鐘も見られます。

日本武尊ゆかりの古刹で繰り広げら

れた死闘に思いを馳せた後は、再びJR「加佐登」駅をめざします。来た道に戻れば、歴史ロマンの余韻に浸りながらの散策が楽しめますが、市内を循環するコミュニティバス「CIBUS」を利用することも可能です。ただし、本数が少ないので事前に時刻表を確認しておくといでしょう。

問 鈴鹿市観光協会(月曜日定休)

TEL 059-380-5595

鈴鹿市文化スポーツ部文化財課

TEL 059-382-9031

「鈴鹿フラワーパーク」で憩う

加佐登神社と「白鳥塚古墳」で、古代の謎に思いをめぐらせた後は、「加佐登調整池」に沿って西へと進みます。「加佐登調整池」は、鈴鹿川水系椎山川のほぼ中流部に位置するダム湖で、昭和58(1983)年の竣工以来、農業用水および工業用水として利用されています。ま

周囲の環境保全、次世代への継承活動を続けています。

た、「白鳥塚古墳」にちなんで「白鳥湖」の愛称で親しまれています。

湖面に浮かぶ水鳥たちを眺めながら歩くと見えてくるのが「鈴鹿フラワーパーク」です。その広さは9.9ヘクタールで、大型遊具に加えて、カラフルな花々が植えられた広場や丘が点在し、四季を通じて楽しめる憩いの場所となっています。駐車場も整備されているため、車でお越しの方は、同園を拠点にしての散策も可能です。

※印の写真は取材先から提供していただきました

三重 の シンボル

南伊勢町

三重県内の市町などが、それぞれの特徴を象徴する存在として選定している木・花を紹介します。



町の木
ミカン



町の花
サクラ

■ お問い合わせ ■

南伊勢町役場 観光商工課 TEL 0599-66-1501

*市・町名の50音順に紹介しています。

*シンボルを選定していない、もしくは鳥や魚などを選定している市町も一部あります。

表紙写真 龍池山 松尾観音寺(伊勢市桶部町)

百五銀行のホームページで、「すばらしき"みえ"」のバックナンバーをご覧ください。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>